

# SFN学会参加について

医学科4回生

35 / 131109

黒田杏理

統合臓器生理学講座の等教授から国際学会に興味があるか、とのお話を初めて聞いたのは、丁度、一年ほど前のことであった。私は、学士編入学で入学しているものの、基礎研究には学部の卒業研究以外で携わったことがなく、にも関わらず、研究自体には非常に興味があったので、国際学会に参加できるチャンスを頂けるのであれば、願っても無いことであった。

さて、参加する事が許可されたSFNだが、何度か海外への渡航歴はあるものの、渡米する(銃の保持が許可されている国に行く事に緊張した)のは初めてであるし、また、単身で渡航するのも初めてだったので(教授陣とは、サンディエゴでの現地集合だったため)、出国する時は非常に緊張した。そもそも、三万人規模の学会参加のために、航空券やホテルを予約するという事自体が、ある程度慣れていないと戸惑う作業であり、そのような事務作業からして勉強になる体験であった。

初めて、国際学会に参加するにあたり、自身でも英語力を強化しようという目標があった。しかし、実際に渡米してみて、学会の発表内容を英語で理解するのは至難の技であった。そこで、半日、教授について回り、ポスター内容を解説してもらったりしながら、レクチャーを受けたのだが、これは非常に贅沢な経験であったと実感している。ポスターの内容説明はもちろん、学会などでの質問をするコツや、学会で効率良く勉強する方法など、かなり具体的なノウハウが学べたと感じている。また、今回、統合臓器生理学講座で提出したポスターの発表にあたっては、私もポスター発表を体験させて頂いた。予め、ファーストオーサーである特任助教の先生に発表の原稿を添削していただき、その原稿を元に発表し、質疑応答も行った・・・つもりである。ポスターを聞いて下さった研究者が非常に高名な先生の場合、逆に様々な知識を教えて頂くこともあった。

私が、今回、国際学会に参加する機会を得て、実際に、学会に参加したことがどのように私に影響を与えたのかを現段階で評価することは、自分自身でも難しい。今の段階では、自分にどのような成長があったのか、もしくは何も変化がなかったのか、判断できないからだ。しかし、今回の学会参加は、受動的に与えられたものではなく、私が強く行きたいと思ったことには違いない。私は、現在、まずは臨床医になりたいと考えているが、研究するという道も捨てがたいと感じている。何か、両方実現する方法はないものかと考えている時に、国際学会への参加のお話をいただいた。もちろん、一度学会に行ったからといって、何か具体的な解決策が見つかるわけではない。しかし、学会に参加した後、臨床医としても研究医としても両方実現したいと、いつも強く願っていたら、自分に合った道が開けてくるのではないかと、思えるようになってきた。今回の学会参加のみで、自分の将来設計が決まったわけではない。しかし、その長い道のりの中の1歩ぐらいにはなったのではないかと、感じている。このような、努力を1つずつ積み重ねていきたいと思っている。